

CSポートフォリオによる診断 解説資料

【目次】

【CSポートフォリオの 開発背景・経緯 】	2
【CSポートフォリオの 設計方針 】	4
【CSポートフォリオの 構造 】	6
【CSポートフォリオの 構成指標 】	9
【CSポートフォリオの 標準版・詳細版 】	16
【CSポートフォリオの 留意点 】	22

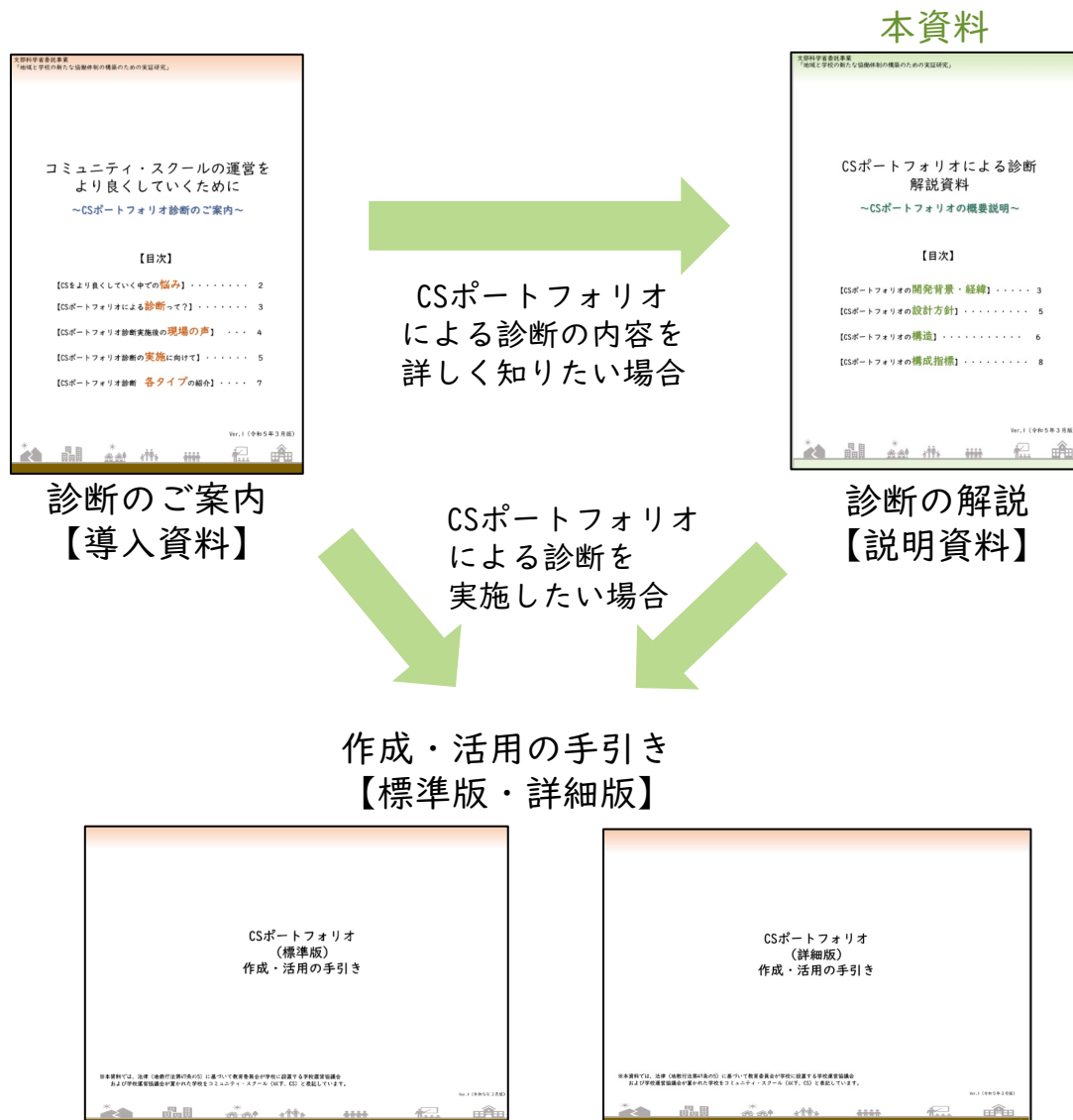
※本資料では、法律（地教行法第47条の5）に基づいて教育委員会が学校に設置する学校運営協議会および学校運営協議会が置かれた学校をコミュニティ・スクール（以下、CS）と表記しています。



～本資料の位置づけ～

文部科学省委託事業「地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究」で開発した「CSポートフォリオ」による診断に関しては、以下の5種類の資料があります。

本資料は、CSポートフォリオによる診断の内容を詳しく知りたい場合に、その開発経緯や設計方針、CSポートフォリオの構造や指標について概要説明を行うために作成した資料です。



いずれのファイルも文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」ウェブサイトの「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」のページよりダウンロード可能です。
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chii-ki-gakko/cs.html>



【CSポートフォリオの開発背景・経緯】

■当初の狙い・問題意識

CSポートフォリオの開発を行ってきた文部科学省委託「地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究」は令和元年度から実施されています。

（当初の委託業務名は「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」）

令和元年当時は、CSの導入率が21.3%（同年5月1日現在）にとどまっていたこと、加えて、エビデンスに基づく政策形成が求められる中で、CS導入の効果を明らかにすることが大きな課題となっていました。

他方で、CS導入後に以下に示すような悩みを学校運営協議会、学校や地域の関係者が感じている実態があり、CSの運営を効率的に改善していくためのツールの開発も大きな課題となっていました。

学校運営協議会

- 本校の学校運営協議会って、適切に運営できているのだろうか？
- 学校運営に活かされる協議には、何を改善すればいいのだろうか？

学校

- CSを導入したが、本校の教育活動にどのような効果があるの？
- 教職員の理解が得られにくいのが、課題（改善点）はどこにあるの？

地域

- ずっと協働活動に関わっているけど、このままの関わり方でいいの？
- 「学校を核とした地域づくり」って、どんな効果が期待できるの？

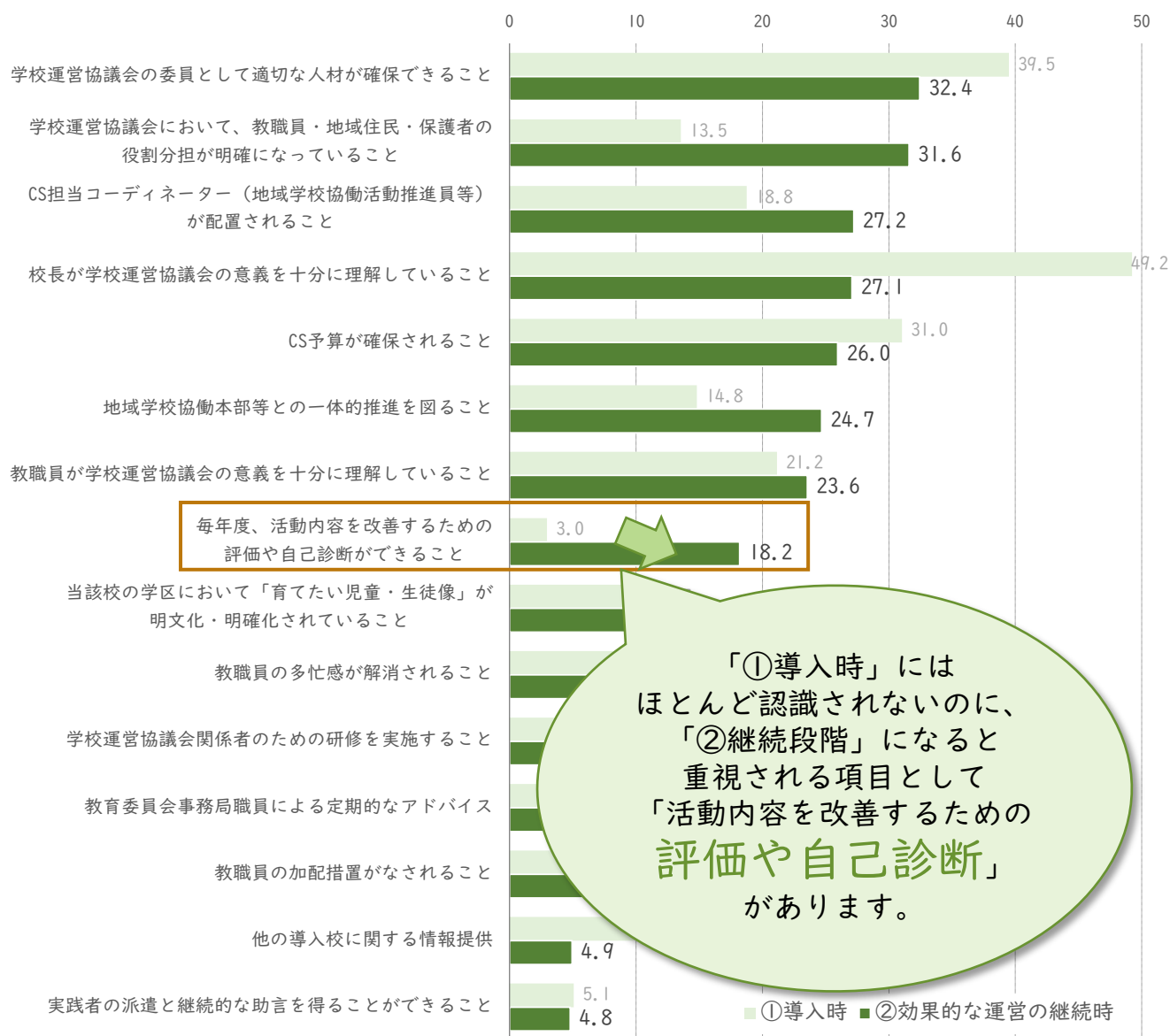
そこで、CS導入の効果発現の構造を明らかにする（CS導入の効果を説明する）という狙いと、CS導入後に取組の改善に活かすことができる（PDCAの診断ツールになる）という2つの狙いを同時に満たすものとして、CSポートフォリオの開発は行われました。



【CSポートフォリオの開発背景・経緯】

■教育委員会の問題意識（CSの運営において大切なこと）

CSポートフォリオのような、CS導入後に取組の改善に活かすことができる診断ツールは、CS導入校がある全国の教育委員会に尋ねたアンケートにおいて、「①導入時」にはほとんど認識されないのに、「②継続段階」になると重視されるという傾向が確認されています。



資料) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究実施報告書 第Ⅱ部 ～コミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に関する基礎的調査～（令和3年3月）



【CSポートフォリオの設計方針】

■CS導入による効果検証の枠組みの活用

既述のとおり、CSポートフォリオは、CS導入の効果発現の構造を明らかにする（CS導入の効果を説明する）という狙いも持っていました。

CSを導入さえすれば何らかの効果が発現するという単純な関係は既往文献でも認められていない中、CSに期待されている多様な効果を引き出すCSの運営方法の工夫を明らかにし、両者の関係を明らかにしていくアプローチを採用しました。

■CS導入の効果（CSの政策目標）の設定

CSポートフォリオの設計にあたっては、まず「CSの効果（CSの政策目標）は何か？」という問いからスタートしました。

過去のCSに係る政策文書、地域と学校の協働に係る既往論文や調査報告書などの文献調査、CS導入校や教育委員会に対するアンケート・ヒアリング調査等からCSに期待されている効果（CSの政策目標）を整理していきました。

その結果、以下に示すように児童・生徒に加え、教職員、地域住民、保護者など関係する様々な主体に対する効果発現を意図していることが見えてきました。各主体に期待されている効果を一定の概念で整理していきました。（CSポートフォリオではこれを「小項目」と呼んでいます。）

児童・生徒の
資質・能力？

教職員の
多忙化の解消？

保護者の
学校への愛着？

児童・生徒の
地域への愛着？

地域住民の
学校参画？

地域住民の
生きがい・つながりの醸成？

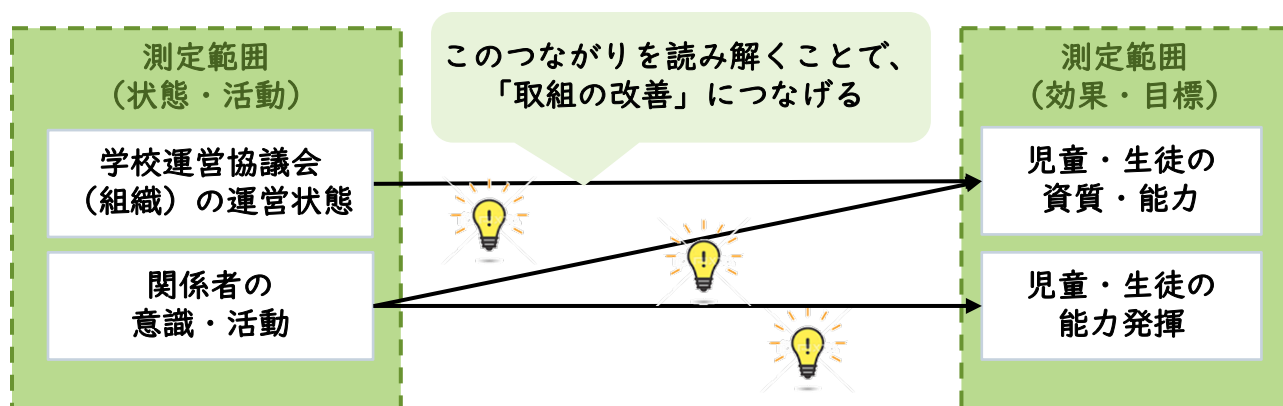


【CSポートフォリオの設計方針】

■CSの効果・目標とCSの状態・活動を「つなげる」

CSポートフォリオによる診断によって、CSの効果が発現するようにしていくためには、効果発現に寄与する状態や行為を明らかにする必要があります。

そこで、CSポートフォリオでは、CSの効果・目標（例えば、児童・生徒の資質・能力）の測定に加え、その要因と考えられる「学校運営協議会（組織）の状態」や「関係者の意識・活動」も定量的に測定するようにしました。



■ CSの効果発現に寄与すると考えられる意識・行動・関係性

CSの効果発現に寄与すると考えられることについて、下記のとおり学術論文等の文献調査、CSマイスターへのインタビューなどを通じて、指標の構造化を図りました。具体的には、関係者の「意識」や「行動」、児童・生徒との「関係性」などがCSの効果発現に寄与していくのではとの仮説が立ちました。

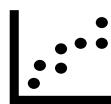
文献から要因・指標を抽出

- CSの成果・効果に関する調査研究
- 教育心理学等の学術研究



現場の知見を抽出

- CSマイスターへのインタビュー
- CS導入校の校長や教育委員会へのインタビュー



指標の構造化

- 各指標の整理・構造化
- 指標間の相関関係の分析
- 有識者検討会での協議



【CSポートフォリオの構造】

■ CSの効果発現の起点としての「学校運営協議会」

CSの効果発現に向けて、CSに関わる関係者の「意識」や「行動」、児童・生徒との「関係性」だけであれば、CSという制度に限らず実現可能となります。

CSならではの点として、法定権限も有する「学校運営協議会」の設置があり、この協議会の運営方法の巧拙が効果発現に寄与するというモデルを組むことで、CSならではの改善を図ることのできるポートフォリオになります。

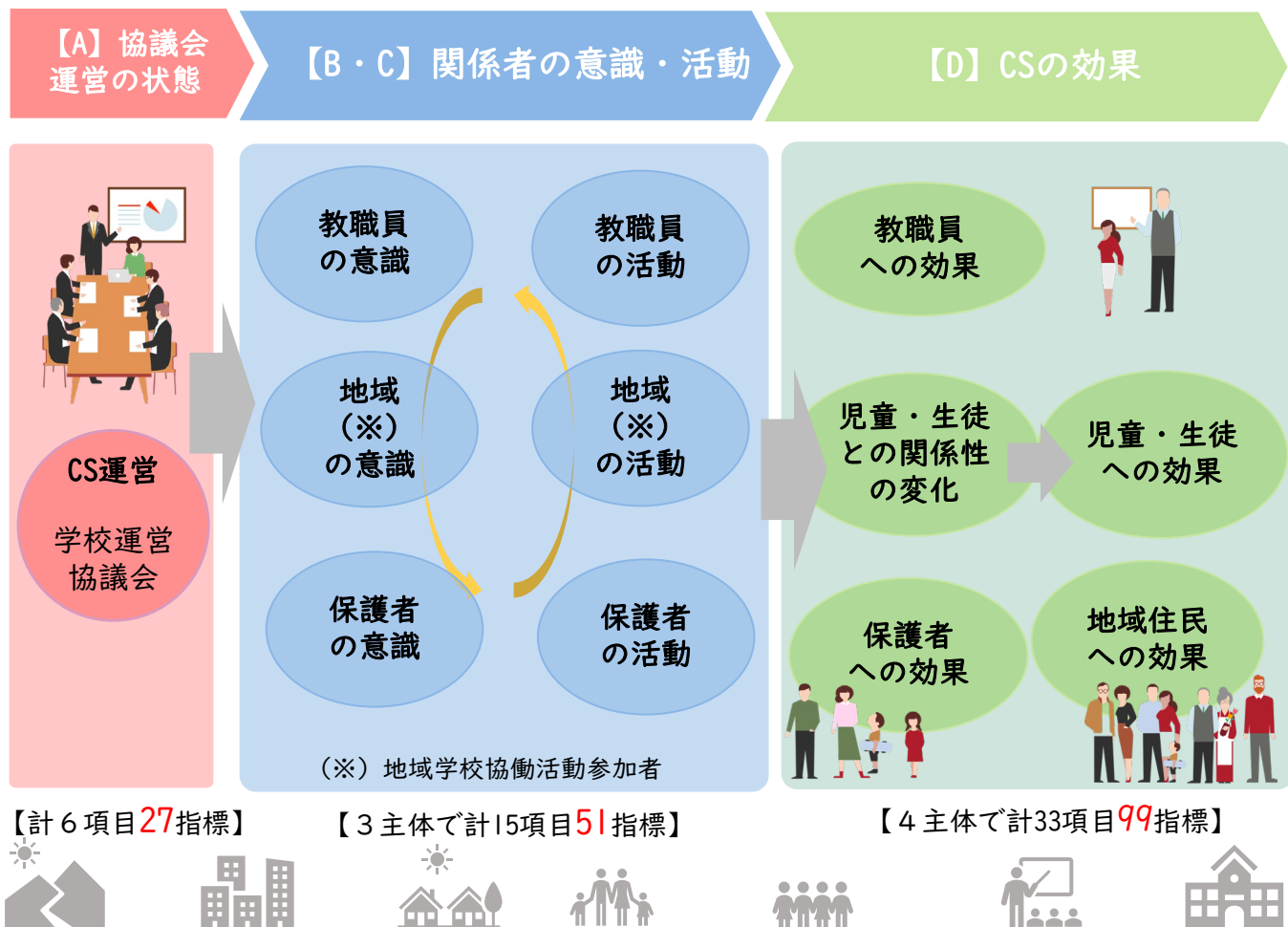
■ CSの効果発現のプロセスを構造化

ここまでの検討を踏まえ、以下のような効果発現のプロセスをモデル化し、各段階での各主体の意識や行動、関係性の指標を178個抽出し、これらを一定の概念で束ねた小項目として54項目整理しました。

そして、各段階の小項目間の相関をみることで、多様な効果発現までのプロセスを検証した結果、モデルとして一定の妥当性が確認できました。

詳しくは、令和元年度報告書にて報告されています。

(<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/mitubisiUFJ.pdf>)



【CSポートフォリオの構造】

■ CSポートフォリオ作成のためのアンケート

前述の構造となったCSポートフォリオですので、その作成にあたっては、CS関係者（協議会委員、教職員、地域住民、保護者、児童・生徒）に対するアンケート調査を行います。

	協議会委員	教職員	地域住民	保護者	児童・生徒
CSの効果	—	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・授業負担の減少 など	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・貢献・生きがいの実感 など	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・貢献・生きがいの実感 など	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の向上 ・地域への愛着・貢献意識の向上 ・学校・教職員・地域との関係性
関係者の意識・活動	—	意識 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともにある学校」という認識 など 活動 <ul style="list-style-type: none"> ・授業における地域・保護者との連携 など 	意識 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともにある学校」という認識 など 活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動への参画 など 	意識 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともにある学校」という意識 など 活動 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育活動の実践 など 	—
協議会運営の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・自律性 ・対等性 ・持続性 ・熟議度 ・実行性 ・共有性 (※内容は後述)	—	—	—	—



【CSポートフォリオの構造】

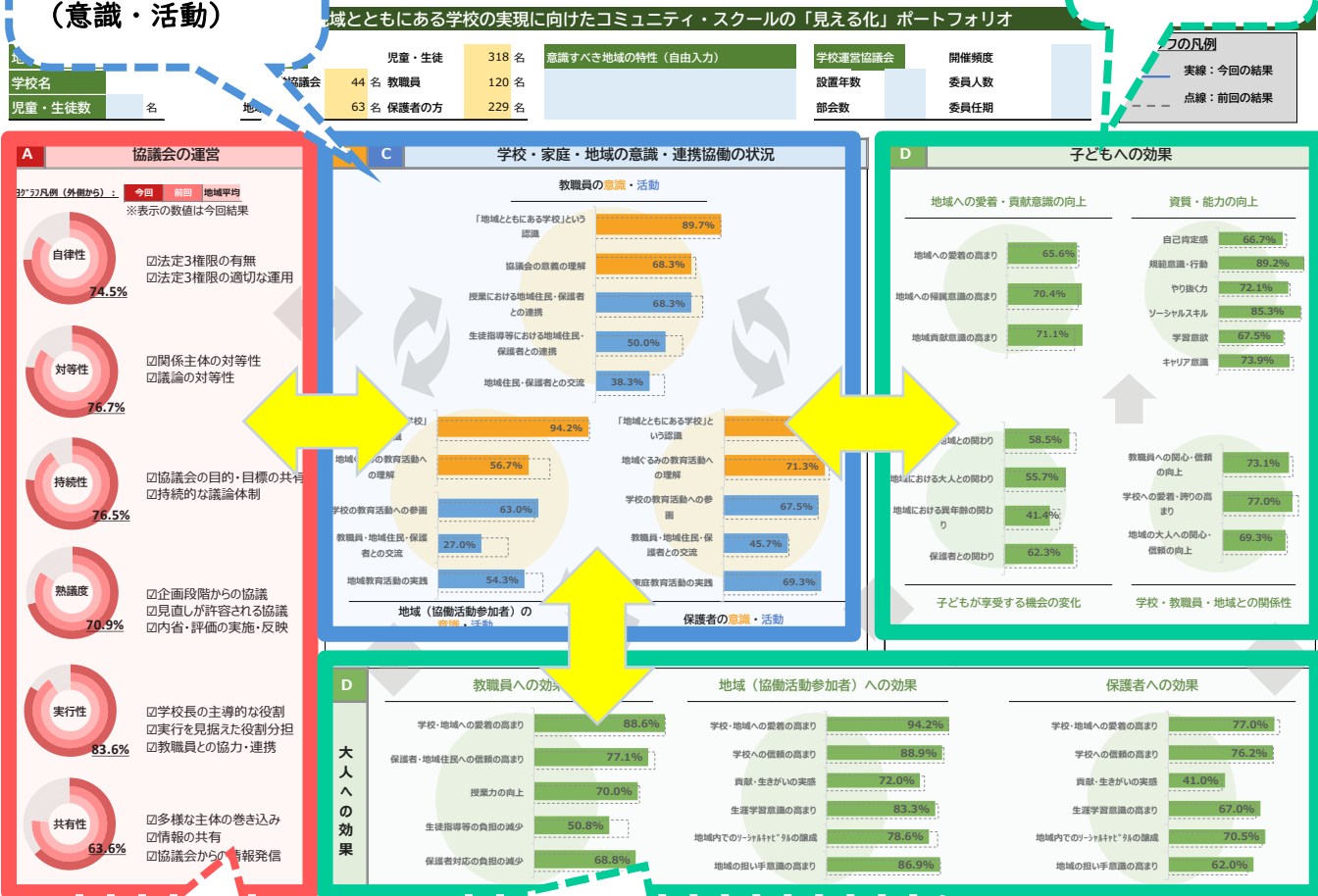
■ CSポートフォリオの総括表

CSポートフォリオは、各主体に対するアンケート結果を以下の総括表と個別指標の回答結果で構成して表示します。

前述のとおり、A～Dの領域に示された項目間は相互に関係することが検証されていますので、Dに示される効果が期待される水準にないと判断する場合は、これと関係のある小項目（指標）をB・C領域、さらにはA領域から抽出し、現場の実態に照らして課題感はないか、と探っていくことで改善点を見出していくことができます。

教職員・地域（協働活動参加者）・保護者へのアンケート結果
（意識・活動）

児童・生徒へのアンケート結果



協議会委員へのアンケート結果

教職員・地域（協働活動参加者）・保護者へのアンケート結果
（CSの成果）



【CSポートフォリオの構成指標】

■ CSポートフォリオを構成する指標と小項目

CSポートフォリオはA～Dまでの4つの領域において、54小項目、178指標によって構成されています。

ここでは各小項目と指標の一覧を紹介します。

A 協議会の運営

自律性	
協 2	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている
協 6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある
対等性	
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある
持続性	
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある
熟議度	
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある
協 16	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある
協 17	当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある
協 18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている
実行性	
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感ずることがある
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている
共有性	
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている



【CSポートフォリオの構成指標】

B 教職員の意識

「地域とともにある学校」という認識	
教 2	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ
教 3	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目）
教 4	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある
協議会の意義の理解	
教 5	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している
教 6	協議会での協議・決定事項に関心がある
教 7	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある
教 8	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ
教 9	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい

B 協働活動参加者の意識

「地域とともにある学校」という認識	
地 3	地域の子どもの成長のためには、自分にも役割がある
地 4	保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要なことだ
地 5	参加する活動は子どもや学校にとって意義のあるものだ
地域ぐるみの教育活動への理解	
地 6	学校の教育目標も意識して、学校支援などの各活動に取り組んでいる
地 7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
地 8	活動（学校支援活動・地域学校協働活動）の参加者同士で、活動目的や内容を話し合う機会がある
地 9	自分の参加する活動以外に、どのような活動があるか知っている

B 保護者の意識

「地域とともにある学校」という認識	
保 3	子どもは、学校や保護者、地域住民と一緒に育てていくものだ
保 4	保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要なことだ
保 5	参加する学校行事や活動は、意義のあるものだ
地域ぐるみの教育活動への理解	
保 6	子どもの通う学校の定める、学校教育目標の内容を概ね理解している
保 7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
保 8	子どもの通う学校において、地域住民が学校の教育活動（授業等）の一翼を担っていることを知っている
保 9	学校外でも、地域住民が子どもの学びを支援していることを知っている



【CSポートフォリオの構成指標】

C

教職員の活動（の変化）

授業における地域住民・保護者との連携

教 10	地域との協働だからできる授業がある
教 11	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする
教 12	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある
教 13	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う

生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携

教 14	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする
教 15	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある

地域住民・保護者との交流

教 16	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる
教 17	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する

C

地域の活動（の変化）

学校の教育活動への参画

地 10	複数年次にわたり参画している活動がある
地 11	心配な子どもがいた時、その情報を教職員に提供する
地 12	自分にできる範囲で、授業や学校での活動に協力する

教職員・地域住民・保護者との交流

地 13	子どものことについて、教職員や地域住民・保護者と一緒に協議したり、考えたりする
地 14	学校内で教職員や地域住民等と気軽に話をする機会・場（コミュニティルーム等）に足を運ぶ

地域教育活動の実践

地 15	地域で子どもを見かけたら、挨拶する
地 16	地域の子どもを褒める
地 17	授業や学校行事の中で、子どもと一緒に活動する
地 18	地域行事やイベントの中で、子どもと一緒に活動する
地 19	地域行事やイベントでは、子どもに企画段階からの参加を促している

C

保護者の活動（の変化）

学校の教育活動への参画

保 10	学級懇談会やPTAの集まりにはできるだけ参加する
保 11	心配な子どもがいた時、その情報を教職員に提供する
保 12	自分にできる範囲で、授業や学校での活動に協力する

教職員・地域住民・保護者との交流

保 13	学校や子どものことについて、教職員や地域住民・保護者と一緒に協議したり、考えたりする
保 14	学校内で教職員や地域住民等と気軽に話をする機会・場（コミュニティルーム等）に足を運ぶ
保 15	自分の子どもの友達の親と交流する

家庭教育活動の実践

保 16	自分の子どもの友達を褒める
保 17	自分の子どもの友達が悪いことをしたら、注意する
保 18	子どもと一緒に、地域の文化に触れたり、学んだりする
保 19	学校や地域での学びも意識して、家庭教育を行う
保 20	自分の子どもを、地域行事や地域での活動に参加するよう促す



【CSポートフォリオの構成指標】

D 子どもが享受する機会の変化

学校での地域との関わり	
子 3	授業の中で、住んでいる地域のことについて学ぶ
子 4	授業や学校行事の中で、地域の人と一緒に活動する
地域における大人との関わり	
子 5	学校の中で、先生以外の大人を見かける
子 6	地域の人に褒めてもらう
子 7	地域のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する
子 8	地域の人と一緒に、地域の行事の企画や準備に取り組む
子 9	学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする
地域における異年齢の関わり	
子 10	地域のほかの学校の子ともと交流する
子 11	地域の、違う学年の人と交流する
保護者との関わり	
子 12	自分の親が、授業参観や学校行事で学校に来る
子 13	自分の親が、家で勉強を教えてくれる
子 14	自分の親と一緒に、地域の文化や風習に触れたり、学んだりする
子 15	自分の親が、学校での話を聞いてくれる

D 子ども：学校・教職員・地域との関係性

教職員への関心・信頼の向上	
子 16	自分のよいところを認めてくれる先生がいる
子 17	何でも話したり、相談したりしたい先生がいる
学校への愛着・誇りの高まり	
子 18	学校生活は楽しい
子 19	自分の学校はすばらしい学校だ
地域の大人への関心・信頼の向上	
子 20	地域の大人は、自分を見守ってくれている
子 21	地域の人と、もっと関わりたい



【CSポートフォリオの構成指標】

D 子ども：資質・能力の向上

自己肯定感	
子 22	今の自分を気に入っている
子 23	自分はやればできる人間だと思う
子 24	学校の勉強は、よく分かる
規範意識・行動	
子 25	みんなで決めたことは守るべきだと思う
子 26	先生に注意されたことはきちんと守る
子 27	友達から誘われても、やってはいけないことはやらない
子 28	友だちがいじめをしていたら注意する
子 29	人を傷つけることをわざと言う（反転項目）
子 30	人が困っているときは進んで助けている
やり抜く力	
子 31	学校や地域でふれあう大人の活動や様子をみて、自分も頑張ろうと思うことがある
子 32	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している
子 33	やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す
子 34	困ったことがおきても、どうにかできると思う
ソーシャルスキル	
子 35	近所や知り合いの人にあいさつする
子 36	先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる
子 37	他の人と異なる意見でも、自分の意見を言える
子 38	誰とでも協力をしてグループ活動をする
学習意欲	
子 39	学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい
子 40	新しいことをつぎつぎ学びたい
キャリア意識	
子 41	将来の夢や目標を持っている
子 42	親や先生の意見を聞くだけでなく、自分で自分が何をしたいのか考えることができる

D 子ども：地域への愛着・貢献意識の向上

地域への愛着の高まり	
子 43	地域の歴史や行事、地域で起きた問題に興味がある
子 44	地域の中での活動や、地域の人と交流することは楽しい
子 45	いま住んでいる地域が好きである
子 46	将来も今住んでいる地域に住み続けたい
地域への帰属意識の高まり	
子 47	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる
子 48	この地域で起こっている問題は、自分にも関係がある
地域貢献意識の高まり	
子 49	自分も地域の人役に立ちたい
子 50	地域のために自分には何が出来るか考えることがある



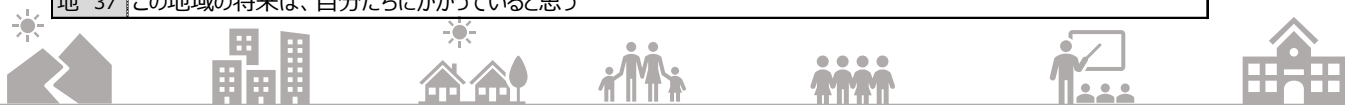
【CSポートフォリオの構成指標】

D 教職員への効果

学校・地域への愛着の高まり	
教 18	教師という仕事にやりがいを感じる
教 19	学校のある地域に愛着を感じる
教 20	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい
保護者・地域住民への信頼の高まり	
教 21	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている
教 22	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案してくれる
授業力の向上	
教 23	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している
教 24	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる
教 25	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる
教 26	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある
教 27	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる
生徒指導・生活指導の負担の減少	
教 28	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる
教 29	地域の人が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている
教 30	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている
保護者対応の負担の減少	
教 31	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない
教 32	保護者や地域住民対応の負担は大きくない

D 地域への効果

学校・地域への愛着の高まり	
地 20	地域の学校に愛着を感じる
地 21	いま住んでいる地域が好きである
地 22	今後も今住んでいる地域に住み続けたい
学校への信頼の高まり	
地 23	今後も何らかのかたちで、学校や子どもに関する活動に関わり続けたい
地 24	学校には、子どもたちを安心して任せられる
貢献・生きがいの実感	
地 25	地域に貢献している実感がある
地 26	学校や地域での活動への参加を通して、充実感を感じる
地 27	地域の子どもの成長に貢献している実感がある
生涯学習意識の高まり	
地 28	どのような年齢になっても学び、学び直しをしたい
地 29	地域活動やボランティアに参加したい
地域内でのソーシャルキャピタルの醸成	
地 30	地域の中に信頼できる仲間がいると感じる
地 31	学校での活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている
地 32	生活の中で、地域の大人や子どもに助けられることがある
地 33	自分も、地域の大人や子どもの力になりたい
地域の担い手意識の高まり	
地 34	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる
地 35	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
地 36	地域の良さを次世代に受け継ぎたい
地 37	この地域の将来は、自分たちにかかっていると思う



【CSポートフォリオの構成指標】

D 保護者への効果

学校・地域への愛着の高まり	
保 21	地域の学校に愛着を感じる
保 22	いま住んでいる地域が好きである
保 23	今後も今住んでいる地域に住み続けたい
学校への信頼の高まり	
保 24	今後も何らかのかたちで、学校や子どもに関する活動に関わり続けたい
保 25	学校には、子どもたちを安心して任せられる
貢献・生きがいの実感	
保 26	地域に貢献している実感がある
保 27	学校や地域での活動への参加を通して、充実感を感じる
保 28	地域の子どもの成長に貢献している実感がある
生涯学習意識の高まり	
保 29	どのような年齢になっても学び、学び直しをしたい
保 30	地域活動やボランティアに参加したい
地域内でのソーシャルキャピタルの醸成	
保 31	地域の中に信頼できる仲間がいると感じる
保 32	学校での活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている
保 33	生活の中で、地域の大人や子どもに助けられることがある
保 34	自分も、地域の大人や子どもの力になりたい
地域の担い手意識の高まり	
保 35	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる
保 36	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
保 37	地域の良さを次世代に受け継ぎたい
保 38	この地域の将来は、自分たちにかかっていると思う



■ CSポートフォリオの特徴と課題

CSポートフォリオは、冒頭で紹介したとおり、CS導入の効果発現の構造を明らかにする（CS導入の効果を説明する）という狙いと、CS導入後に取組の改善に活かすことができる（PDCAの診断ツールになる）という2つの狙いを同時に満たすものとして開発されました。

このため、CSに期待される効果を網羅的に抑えているという強みがある一方で、測定する指標が177指標と多く、また、測定にかかるアンケート調査の負荷も非常に大きなものとなる課題がありました。

そのことが、CSポートフォリオの診断を実施する上での大きなハードルになっていました。

■ CSポートフォリオとして2つのタイプの提示

上記の課題と、CSポートフォリオによる診断の実施成果（診断を踏まえた改善点の検討状況）を踏まえ、CSポートフォリオ診断の良さを残しつつ、実施に係る負荷を軽減するタイプの開発を行いました。

その結果、これまで説明してきた当初のCSポートフォリオを「詳細版」、新たに開発したものを「標準版」として、2つのタイプのポートフォリオを利用できるようにしました。

	CSポートフォリオ（標準版）	CSポートフォリオ（詳細版）
主な用途	主に委員と教職員の視点から学校運営の改善点を探る	CSに関わる各主体の状態や成果実感を測定し、改善点を探る
調査対象	3主体 (委員/教職員/児童・生徒)	5主体 (左記に加え、地域/保護者)
調査項目	学校運営・ガバナンスに係る指標	CSに期待される成果や状態に係る指標
指標数	計74指標	計177指標



【CSポートフォリオの標準版・詳細版】

■ CSポートフォリオ 標準版・詳細版の指標比較

CSポートフォリオの標準版・詳細版にそれぞれ用いられている指標の一覧を示すと下記のとおりとなります。

CSポートフォリオ指標一覧（協議会調査）		詳細版	標準版
A. 協議会の運営			
自律性			
協 2	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	●	●
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	●	●
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	●	●
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	●	●
協 6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	●	●
対等性			
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	●	●
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	●	●
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない	●	●
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	●	●
持続性			
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている	●	●
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	●	●
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	●	●
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	●	●
熟議度			
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	●	●
協 16	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	●	●
協 17	当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	●	●
協 18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	●	●
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	●	●
実行性			
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	●	●
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	●	●
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	●	●
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	●	●
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	●	●
共有性			
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	●	●
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	●	●
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	●	●
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	●	●



■ CSポートフォリオ 標準版・詳細版の指標比較

CSポートフォリオ指標一覧（教職員調査）		詳細版	標準版
教職員の意識			
「地域とともにある学校」という認識			
教 2	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	●	
教 3	地域の人が関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目）	●	
教 4	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	●	
協議会の意義の理解			
教 5	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	●	●
教 6	協議会での協議・決定事項に関心がある	●	●
教 7	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	●	●
教 8	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	●	●
教 9	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	●	●
教職員の活動			
授業における地域住民・保護者との連携			
教 10	地域との協働だからできる授業がある	●	●
教 11	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	●	●
教 12	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	●	●
教 13	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	●	●
生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携			
教 14	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	●	●
教 15	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	●	●
地域住民・保護者との交流			
教 16	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	●	●
教 17	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する	●	●
教職員への効果			
学校・地域への愛着の高まり			
教 18	教師という仕事にやりがいを感じる	●	
教 19	学校のある地域に愛着を感じる	●	
教 20	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	●	
保護者・地域住民への信頼の高まり			
教 21	保護者や地域の方は、学校の課題や問題点を理解してくれている	●	●
教 22	保護者や地域の方は、学校にとって有意義な意見・提案してくれる	●	●
授業力の向上			
教 23	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	●	●
教 24	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	●	●
教 25	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がある	●	●
教 26	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある	●	●
教 27	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる	●	●
生徒指導・生活指導の負担の減少			
教 28	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がある	●	●
教 29	地域の方が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている	●	●
教 30	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている	●	●
保護者対応の負担の減少			
教 31	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	●	●
教 32	保護者や地域住民対応の負担は大きくない	●	●



■ CSポートフォリオ 標準版・詳細版の指標比較

CSポートフォリオ指標一覧（児童生徒調査）

詳細版

標準版

子どもが享受する機会の変化

学校での地域との関わり			
子 3	授業の中で、住んでいる地域のことについて学ぶ	●	
子 4	授業や学校行事の中で、地域の人と一緒に活動する	●	
地域における大人との関わり			
子 5	学校の中で、先生以外の大人を見かける	●	●
子 6	地域の人に褒めてもらう	●	●
子 7	地域のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する	●	●
子 8	地域の人と一緒に、地域の行事の企画や準備に取り組む	●	●
子 9	学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする	●	●
地域における異年齢の関わり			
子 10	地域のほかの学校の子とも交流する	●	●
子 11	地域の、違う学年の人と交流する	●	●
保護者との関わり			
子 12	自分の親が、授業参観や学校行事で学校に来る	●	
子 13	自分の親が、家で勉強を教えてくれる	●	
子 14	自分の親と一緒に、地域の文化や風習に触れたり、学んだりする	●	
子 15	自分の親が、学校での話を聞いてくれる	●	

学校・教職員・地域との関係性

教職員への関心・信頼の向上			
子 16	自分のよいところを認めてくれる先生がいる	●	
子 17	何でも話したり、相談したりしたい先生がいる	●	
学校への愛着・誇りの高まり			
子 18	学校生活は楽しい	●	
子 19	自分の学校はすばらしい学校だ	●	
地域の大人への関心・信頼の向上			
子 20	地域の大人は、自分を見守ってくれている	●	
子 21	地域の人と、もっと関わりたい	●	



■ CSポートフォリオ 標準版・詳細版の指標比較

CSポートフォリオ指標一覧（児童生徒調査）

詳細版

標準版

資質・能力の向上

自己肯定感			
子 22	今の自分を気に入っている	●	●
子 23	自分はやればできる人間だと思う	●	●
子 24	学校の勉強は、よく分かる	●	●
規範意識・行動			
子 25	みんなで決めたことは守るべきだと思う	●	
子 26	先生に注意されたことはきちんと守る	●	
子 27	友達から誘われても、やってはいけないことはやらない	●	
子 28	友だちがいじめをしていたら注意する	●	
子 29	人を傷つけることをわざと言う（反転項目）	●	
子 30	人が困っているときは進んで助けている	●	
やり抜く力			
子 31	学校や地域でふれあう大人の活動や様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある	●	●
子 32	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	●	●
子 33	やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す	●	●
子 34	困ったことがおきて、どうにかできると思う	●	●
ソーシャルスキル			
子 35	近所や知り合いの人にあいさつする	●	
子 36	先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる	●	
子 37	他の人と異なる意見でも、自分の意見を言える	●	
子 38	誰とでも協力をしてグループ活動をする	●	
学習意欲			
子 39	学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい	●	●
子 40	新しいことをつぎつぎ学びたい	●	●
キャリア意識			
子 41	将来の夢や目標を持っている	●	
子 42	親や先生の意見を聞くだけでなく、自分で自分が何をしたいのか考えることができる	●	

地域への愛着・貢献意識の向上

地域への愛着の高まり			
子 43	地域の歴史や行事、地域で起きた問題に興味がある	●	●
子 44	地域の中での活動や、地域の人と交流することは楽しい	●	●
子 45	いま住んでいる地域が好きである	●	●
子 46	将来も今住んでいる地域に住み続けたい	●	●
地域への帰属意識の高まり			
子 47	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる	●	
子 48	この地域で起こっている問題は、自分にも関係がある	●	
地域貢献意識の高まり			
子 49	自分も地域の人役に立ちたい	●	●
子 50	地域のために自分には何が出来るか考えることがある	●	●

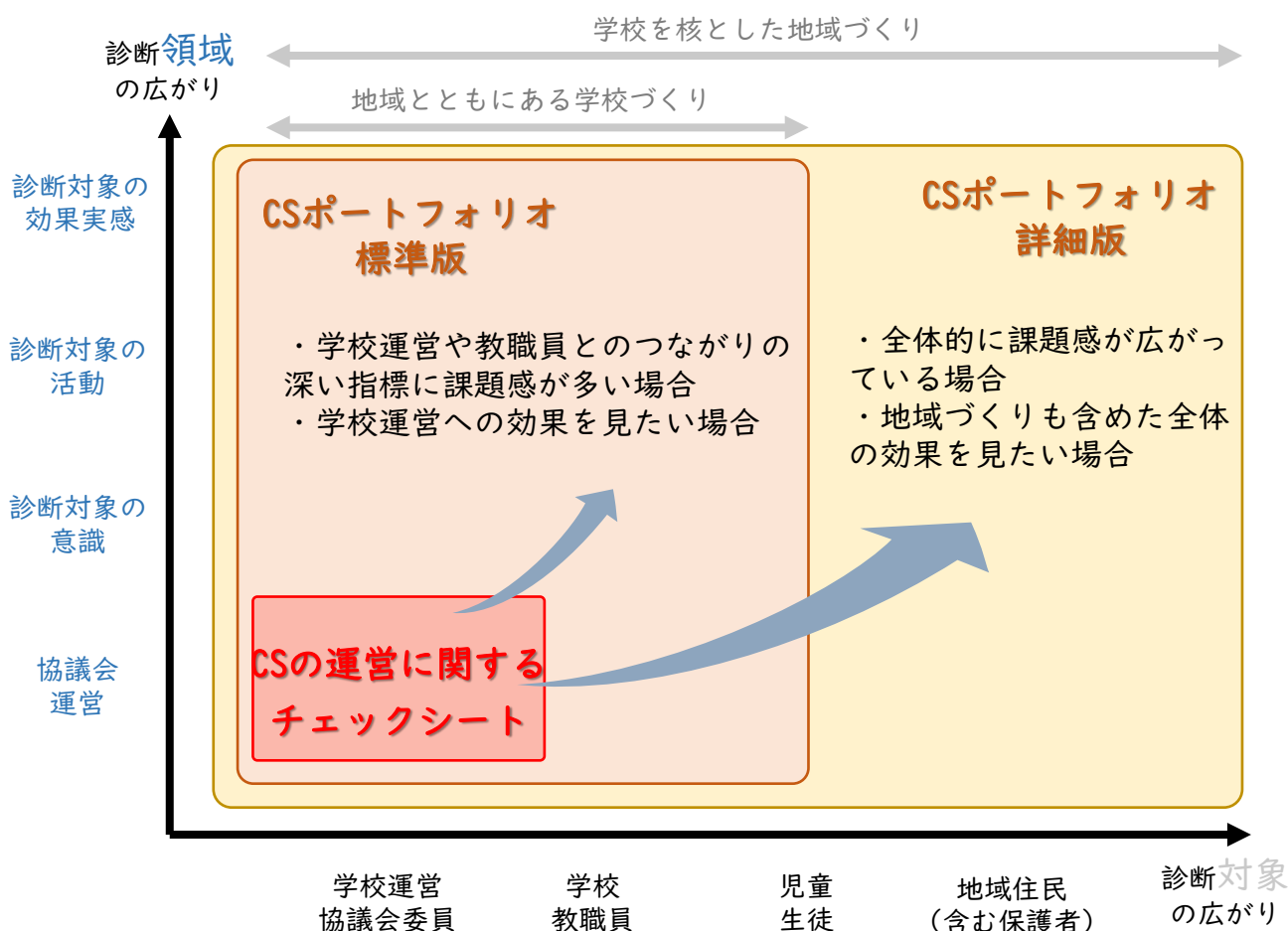


【ニーズにあわせた3タイプ】

これまで紹介したCSポートフォリオの標準版・詳細版という2タイプに加え、より簡易に、CSポートフォリオ診断のイメージを掴んでいただくためのチェックリストも用意しています。

これら3つのタイプが対象とする領域のイメージを整理すると以下のような図で示すことができます。

- CSの運営に関するチェックシート：
協議会の運営状況のみを対象とするエントリータイプ
- CSポートフォリオ（標準版）：
主に学校運営の状態、学校運営への効果を診るタイプ
- CSポートフォリオ（詳細版）：
学校運営から地域の状態から効果まで幅広く診るタイプ



■ 汎用的なCSポートフォリオを各校にカスタマイズする必要性

ここまで説明してきたように、CSポートフォリオはCSで期待される多様な効果を網羅することを起点に設計されているため、CSの導入目的・目標が曖昧な状態の学校や教育委員会においては、様々な効果側面や状態を把握できる良さがある一方、ある程度、CSの導入目的・目標が明確になっている学校や教育委員会においては、必要のない指標が多い印象を持たれると思います。

後者の学校・教育委員会においては、CSポートフォリオが示す効果発現までのプロセスモデルは参考としていただきつつ、各学校・教育委員会が設定している目標に準じた指標のみを抽出したり、独自に設定する指標と融合させながら独自のCSポートフォリオによる診断を実施していただくことが最も効果的と思われます。

■ 調査の実施と結果の読み取りにおける留意点

CSポートフォリオは、CSに関わる各主体へのアンケートによって測定した結果に基づいて診断するツールです。

このため、アンケートで収集するデータの精度が、その後の読み取りや改善策検討の要点となり、以下の点に留意が必要です。

★学校運営協議会の委員、対象学年の児童・生徒、保護者、教職員の調査においては、悉皆（全数）での調査が望ましいです。

未回答者がいる場合は母集団の回答と誤差が発生することになります。

（例えば、100人の学年で許容誤差5%とするには80人の回答が必要）

★経年変化をみる場合、調査対象自体が変化している（例えば、n年の6年生を対象とした後に、n+1年の6年生を対象として変化をみる場合、母集団となる児童自体が異なる）ことを踏まえて回答結果を読み取る必要があります。

